



がっこうりん

学校林

ゆうゆう もり

遊々の森

全国子どもサミット in 東北 報告書

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 東北実行委員会

目次

CONTENTS

- 01 はじめに** …1
【学校林・遊々の森】全国子どもサミットの目的】
【学校林とは】
【遊々の森とは】

プログラム …2

- 02 各小学校の取組み**
- (1) 神奈川県 相模原市立広陵小学校 …3
 - (2) 静岡県 静岡市立松野小学校 …6
 - (3) 岐阜県 高山市立栃尾小学校 …10
 - (4) 北海道 江差町立江差北小学校 …12
 - (5) 山形県 米沢市立三沢東部小学校 …14
 - (6) 秋田県 北秋田市立合川東小学校 …17
 - (7) 秋田県 北秋田市立鷹巣南小学校 …19
 - (8) 秋田県 藤里町立藤里小学校 …22
 - (9) 宮城県 仙台市立川前小学校 …24
 - (10) 宮城県 松島町立松島第五小学校 …26
 - (11) 岩手県 葛巻町立江刈小学校 …28
 - (12) 岩手県 八幡平市立安代小学校 …30
 - (13) 青森県 NPO法人白神自然学校一ツ森校 …32

- 03 活動発表の講評** …35

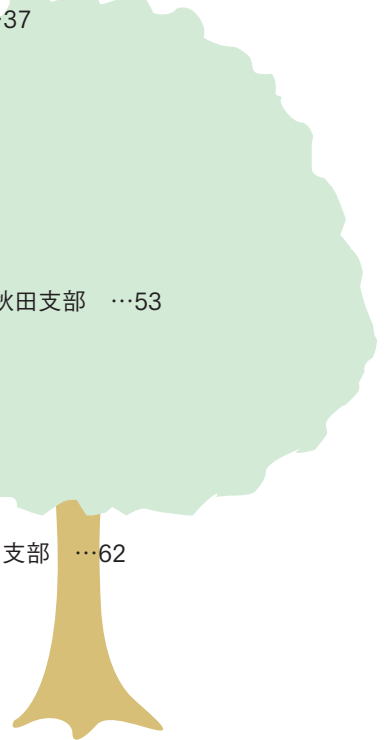
- 04 「森林を活用した教育をする上での課題と克服に向けた取組み」における先生方との意見交換会** …37

- 05 森林体験学習** …47

- 06 各実行委員会(組織)の取組み**
- (1) 林野庁 …49
 - (2) 東北森林管理局 …50
 - (3) 財団法人オイスカ …51
 - (4) 社団法人秋田県緑化推進委員会 …52
 - (5) 社団法人全国森林レクリエーション協会秋田支部 …53
 - (6) 秋田県森林インストラクター会 …54
 - (7) 秋田県森の案内人協議会 …55

- 07 協賛企業の取組み**
- (1) セブンイレブン記念財団 …57
 - (2) 三井ガーデンホテルズ …59
 - (3) CGCジャパン …61
 - (4) 財団法人日本森林林業振興会 青森・秋田支部 …62
 - (5) 日本コカ・コーラ …63

- 08 協賛企業広告**



01

02

Title

はじめに

03

04

05

06

07

08



はじめに

【「学校林・遊々の森」全国子どもサミットの目的】

「学校林・遊々の森」は、子どもたちが自らの行動で学び体験する活動が行われる学習・体験活動の場です。

「学校林・遊々の森」全国子どもサミットは、この活動の取組を広げていくことを目的として、平成19年度に東京都八王子で開催したのが始まりで、20年度は熊本県熊本市、21年度は高知県香美町で開催され、今回4回目となる22年度は秋田県八峰町で開催したものです。

『「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin東北』では、東北地域から9校に加え、北海道、岐阜県、静岡県、神奈川県から各1校の小学校等児童や先生方等約100名が参加し、子どもたちによる森林づくりを通じた体験活動発表や先生方の意見交換会などを行い、これらの情報発信を通じて、森林づくりの大切さの輪を全国へ広げていこうとするものです。

【学校林とは】

明治時代に、森林の造成を通じ、青少年の林業教育、学校の基本財産の造成を目的に設定されました。

平成18年度時点で、全国の小学校、中学校、高等学校のうち、3,057校において、約2万ヘクタールが設定されています。

学校林活動は、木材価格の低迷等による林業不振や学校カリキュラムの見直しにより停滞していました。

最近になって、総合的な学習の時間の導入により、環境学習の場として、学校林活動が見直されつつあります。しかしながら、全体では各学校単独での活動にとどまり、地域的な広がり欠缺しているのが現状です。

学校林活動を多くの学校に広げ、継続的に展開していくためには、学校同士の横のネットワークと地域社会、NPOの支援が課題と考えられます。

【遊々の森とは】

総合的な学習の時間などにおいて、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、平成14年に創設された制度です。森林での学習活動、体験活動に国有林のフィールドを提供します。

自然観察、昆虫採集などの森林学習のほか、社会や理科、音楽などの授業、植林・間伐などの体験作業、野外ゲーム、ツリーハウスなどの森林の遊びの場として、継続的な利用が可能です。

平成21年度末現在、全国162箇所が設定されています。





日時:平成22年8月9(月)~10日(火)
場所:秋田県山本郡八峰町 あきた白神体験センター

【8月9日】

13:00~13:20/開会式

13:30~17:00/3班に分かれて自然観察

「森林のことをもっと知ろう」

- 1班「留山ブナ林散策」
- 2班「留山ブナ林散策」
- 3班「仁耐植物群落保護林天然秋田スギ林散策」

※雨天により予定していた自然観察を変更し、「白神山地世界遺産センター 藤里館」において白神山地世界遺産地域に関する展示やビデオ等を見て、森林体験学習を実施。

19:00~20:30/「森林を活用した教育をする上での課題と克服に向けた取り組み」をテーマに先生方の意見交換会

「森林体験学習:木にふれて創作しよう」

- 積み木で創作しよう(秋田杉間伐材使用)
- マイ箸をつくろう(秋田杉端材)
- スプーンをこしえろど(秋田杉端材)

【8月10日】

8:50~10:30/小学生児童による森林学習・体験活動発表会

10:30~11:00/講評・閉会式



01

02

Title

各小学校の取組み

03

04

05

06

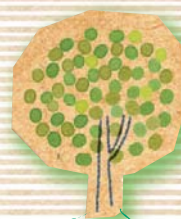
07

08



「広陵もりっく」について

神奈川県相模原市立広陵小学校
6年 安西 幸香・山形 つき



1 はじめに

(1) 学校について

広陵小学校は、昭和53年（33年前）に、新興住宅地の造成による児童の急増に伴って創立開校しました。過去には900人を超える子どもたちが通っていましたが、現在は全校児童250人の小さな学校です。

(2) 「広陵もりっく」について

広陵小学校の「学校林」は、創立当時の先生方が、学校の西隣の「緑地」に1本の歩道をつけ「自然観察林」と名付けて、植物の観察などに使用したのが始まりです。校庭から入れるので、大変便利に使われていたようです。

創立から月日がたつにつれ、次第に使われなくなると、人の手の入らない林の歩道も崩れ、大変暗くじめじめした「あれた林」になり、子どもたちの立入も禁止されるようになりました。

せっかくの資源をそのまま放置しておくのはとてももったいないと、平成18、19年度に大がかりな整備を行い、「自然観察林」は、新たに「広陵もりっく」として生まれ変わりました。現在は、授業や学校行事の活動の場、休み時間の遊び場として活用されています。

「広陵もりっく」でのコンセプト

- ①学校教育に日常的に活用するための森
- ②貴重な森林と自然保護の象徴としての森
- ③学校だけでなく、行政や地域、企業やNGOの協働の可能な森



2 もりっくでの活動

(1) もりっく整備

「広陵もりっく」の整備は、年2回行われています。その中心となって計画・実行を行っているのが、「広陵もりっく」保全委員会です。学校関係・地域関係・行政関係・NGO関係の方々で構成されていて、年2回会議を開いて、整備の計画や保全に関わる話し合いを行っています。

学校だけでは実現が難しい整備なども、専門的な立場の方々からアドバイスをいただいたり、一緒に作業をしていただいたりして、安心して取り組むことができます。

雨などで崩れてしまった歩道の補修や立ち枯れている木の伐採などは、保護者や地域の方と職員で行っています。そして、下草刈りや小枝などの運搬は、子どもたちが行います。整備の後には、クラフトや焼き芋などの楽しい活動も行いました。



(2) 教科等の学習

①生活科・理科

生活科では、年間を通じて「もりっくたんけん」を行い、「もりっく」の中にいるいろいろな生き物や植物を見つける活動をしました。虫だけでなく、木々の間に生えている小さな苗木に気づいた子どももいました。

3、4年の理科でも、年間を通じて「もりっく」に入り、植物や生き物の観察をしました。4年生は「なかよしの木」を決め、定点観察を行いました。



②国語

1、2年生が、国語の時間に「もりっく」のステージを使い、詩の音読の発表会をしました。ステージは周りを木に囲まれ、すり鉢状になっているので、声が響いて聞こえます。

5年生は「森林のおくりもの」という教材に関連して、地域の森林インストラクターの方に来ていただき、「もりっく」の中でお話を聞きました。



③図工

1年生は、「地球からのおくりもの」という学習で、「もりっく」の木ぎれや落ち葉などを使って、作品を作りました。

3年生は「くぎうちトントン」という学習で、木を使って生き物をつくり、「もりっく」の木の根元や切り株の近くに飾りました。その後、「〇〇ちゃんをさがせ」というメッセージカードを作り、「もりっく」で生き物探しゲームを行いました。



④ひろば（総合的な学習の時間）

4年生は、冬に「もりっく」からコナラの木を切り出し、ドリルで穴を開けてシイタケの菌を植え付けました。シイタケができるのは次の年の秋か、2年後の秋になります。

6年生は、19年度に「ステージ」と看板を、20年度に「展望台」と案内板を作りました。年度初めから「もりっくにどんなものがあたらいいか。」ということで話し合いを重ね、校長先生や業者の方をお願いをして「ステージ」や「展望台」の土台を作っていただきました。そして、みんなで絵を描いて飾りました。「ステージ」と「展望台」は「もりっく」の自慢のスポットです。



(3) もりっくデー

月1回ずつ、50分間あるロング昼休みの日を「もりっくデー」として、1・6年、2・5年、3・4年のペア学年で「もりっく」に入って遊ぶ時間を設定しています。

宝探しやリレー遊び、かくれんぼなど、たてわり班ごとに上の学年の子が遊びを考えて準備をし、「もりっく」で自由に遊びます。また、時には「葉っぱ探し」や「ビンゴゲーム」などのネイチャーゲームを行うこともありました。



(4) 行事

① 広陵フェスティバル10

平成20年度までは、「6月大集会」として、1・6年、2・5年、3・4年のペア学年で「もりっく」のステージを使ってリコーダーや歌、音読の発表などを行っていました。

昨年度、児童会の行事を大きく変更し、「広陵フェスティバル10」として、10月にたてわり班ごとにいろいろなアトラクションに挑戦する活動になりました。

「もりっく」では、たてわり班ごとにステージの上で大きな声を出し合う「大声コンテスト」を行いました。自然の中で思いっきり大きな声を出すので、どの子どもとも気持ちよさそうでした。



3 おわりに

(1) 子どもたちの願い

- 今年で33年目を迎える本校には、保護者も広陵小出身という子どもがたくさんいます。保護者からは、「子どもの頃は、休み時間に校庭で遊ぶ場所がないから、よく自然観察林に行って遊んでいたよ。」というお話を聞いたことがあります。親子で同じ自然を通して話ができるというのは、とても貴重なことだと思います。本校の自慢の財産という意識が、子どもたちにも根付いています。
- 子どもたちに聞くと、「もっともりっくで自由に遊びたい。」という声がたくさん出てきます。せっかくの貴重な自然も、入って活動ができなければ、遠くにある森と変わりありません。学習で活用するだけでなく、子どもたちにとっては、貴重な遊び場という思いが強いようです。

(2) 今後の課題

- 学校のすぐそばにあるので、いつでも使うことができる利点がありますが、その分、活動際の安全確保で校内以上に難しい点があります。スズメバチやヘビを見ることがあります。崖になっている場所もあるので、進入禁止区域を作るなど、もっと安全で、安心して使えるようにしていければと思います。
- 国語の学習で森林インストラクターの方に来ていただいたように、「もりっく」で見られる植物や動物、虫などについて教えてくださる方や子どもたちの疑問に答えてくださる方がいらっしやると、理科や生活科、総合などの学習がもっと深まると思います。
- 今は学年の担任が創意工夫で「もりっく」の活用法を手探りしている状態です。せっかくの身近な自然を、教材としてどのように学習に組み込んでいけばよいか、参考となるプログラムなどの情報がほしいと思います。
- 今はまだほとんどの整備作業を地域の方や保護者に頼っています。今後は「自分たちの大切な財産」として、子どもたちが自身の手で簡単な整備を行えるようにしていきたいと思っています。



わくわくの森・どきどきの池は松野っ子の宝

静岡県静岡市立松野小学校

6年 由比藤 一真 5年 松永 優

1 学校紹介

松野小学校は、静岡市の中心部から北へ約1.2km離れた地域にあり、静岡市を流れる安倍川に沿った油山、松野、津渡野の3つの地区、384世帯が暮らす農山村地域に位置している。全校児童67名の小さな小学校である。

2 学校・学校林の歴史

松野小学校は今年創立135年を迎える歴史ある学校である。学校林は大正15年頃に植林が行われたという記録があるので80年ほどの歴史があるが教育活動の中で活用されるようになったのは平成になってからである。

3 取り組み

学校林の保全・ビオトープ再生事業（松野の里山回復事業）を通して、子ども、教職員、保護者、地域住民等が一体となった環境教育プログラムをつくろう。

4 取り組みの経過

環境教育プログラムの柱は、「松野の自然から学ぶ活動」「松野の自然を守り育てる活動」「自然を通じた交流活動」の3つとした。

「松野の自然から学ぶ活動」

- ①生活科、理科、図工などの教科学習での学校林の活用授業の展開
- ②松野小ジオパーク構想の実現とその活用

「松野の自然を守り育てる活動」

- ①わくわくの森・どきどきの池を守り育てる活動
- ②地域の協力による学校林内の遊歩道、木道づくり、植樹活動
- ③水辺の復元による水生生物の繁殖や昆虫のパラダイス作り、野鳥の森づくり活動

「自然を通じた交流活動」

- ①積木教室開催
- ②地域に公開した学習発表会（環境教育の成果発表を含む）
- ③学校林フォーラムの開催
- ④炭焼き体験と炭を介しての交流活動

上記の活動によって、学校が松野小学区のネットワークの小拠点となるとともに、地域の里山回復事業ともつながりをもつようになった。これにより学校と保護者、地域住民の心をひとつにし、理解と協力体制をいっそう強固なものにする、ふるさと松野の宝もの活動へと発展している。

5 取り組みの成果及び今後の課題

「松野の自然から学ぶ活動」

松野小学校には大正15年頃に植林した学校林と校地の西北に位置する湿地帯があった。それらを整備することを通して、環境教育プログラムを作り上げていくことに取り組んでいった。



図1 わくわくの森



図2 どきどきの池

まず、学校林と湿地をそれぞれ「わくわくの森」（図1）「どきどきの池」（図2）と子どもたちが命名するところから活動が始まった。

「どきどきの池」の整備が進むにつれ、水辺に生きる動物が増え、植生も回復してきたので、各学年で動植物の観察が始まった。（図3）

①教科学習での学校林の活用授業の展開

カワトンボ、イトトンボやオニヤンマ、ギンヤンマなど、理科や生活科の学習で20数種類の昆虫を確認できて、子どもたちは大喜びしていた。また、どきどきの池でもオイカワをはじめとする魚が200匹以上見られるようになり、それらを求めて、コサギ、ゴイサギ、アオサギ、そしてカワセミまで観察することができた。



図3 観察

学校林では、ウメやヤマモモなどの果実が初夏になると実る。子どもたちは季節の実りを味わう他に、山の恵みの保存方法を調べた。

1・2年生は生活科の学習（図4）でウメをとって梅ジュースにしたり、ヤマモモをジャムにしようと挑戦したりしていた。

図工では学校林の整備作業で切り出された竹や間伐材を使って工作に取り組んだ。（図5・6）



図4 梅採り



図5 間伐材を使って



図6 竹を使った作品



図7 段丘礫の看板



図8 葉っぱ遊び

②松野小ジオパーク構想の実現とその活用

松野小が位置するところは松野河岸段丘があり、段丘を作っている地層が見られるのは「わくわくの森」の中だけであることがわかった。この貴重な地質財産をジオパークにして活用する構想のもと、説明の看板を設置して6年の理科「地層」の学習に役立てた。（図7）

「松野の自然を守り育てる活動」

①「わくわくの森」「どきどきの池」を守り育てる活動

健全な森や池を維持するために、高学年の総合的な学習の時間を利用して、学校林の整備作業に取り組んでいる。





6月には学校林の椎の木の森を光が差し、風が通る明るく健康的な森になるように木の伐採をした。地元の林業家（望月義明氏）の指導の下、のこぎりを持って子どもたちも伐採活動を体験した。

7月には学区内の油山の森に8年前に先輩たちが植樹した檜林の間伐作業もある。このような森林教室の体験を通して森の大切さと里山を守るには人の手が必要であることを学んでいる。秋から冬にかけては油山の森での枝打ち作業も経験する。

子どもたちは環境委員会の呼びかけで松野っ子班という縦割り班で草取りをしたりゴミ拾いをしたりする愛校活動をしている。

学校林を「わくわくの森」、隣接する池を「どきどきの池」と命名し、森と池が一体となったビオトープではガマが茂りすぎればそれを取り除いたり、水辺の草花を植えたりして、自然のバランスを崩さずに最適な自然環境を維持していこうと努力している。

また、日当たりのよいところに石を積み上げ「とかげの館」をつくったり、昆虫が集まるように枯れ葉の堆肥置き場を作ったりしている。カワセミが来るどきどきの池には水生生物が集まってきた。



②地域の協力（木道整備、植樹作業）

「どきどきの池」に木道をつくる作業（図8）やシャクナゲの植樹（図9）作業では、保護者の方々や地域の方も集まって子どもたちと一緒に活動してくれた。わくわくの森の遊歩道づくりもおこなった。

「わくわくの森」の入り口に門がつくられたり、「どきどきの池」には水車が設置されていった。地域の有志の方々がその後も苗木を持って来て植樹をしてくれたり、木のテーブルやベンチの設置などにも協力していただいた。



図8 木道整備



図9 植樹

③やまめの孵化に挑戦

地域の方からやまめの受精卵を分けていただいたことから子どもたちで、やまめの孵化にも挑戦した。牛乳パックでつくった手作りの水槽の中で孵化した稚魚（図10）を見つめる子どもたちの目の輝きがとても印象的だった。生命の大切さを学習することができた。

その後、やまめの稚魚はどきどきの池に放流され、一回りも二回りの成長した姿を見せてくれている。来春には鮎の放流も計画している。さらにアサギマダラが飛来するように、フジバカマの育成を図ったり、ホタルの育成・保護活動にも取り組んでいくことにしている。



図10 やまめの孵化



「自然を通じた交流の輪を広げる活動」

①積木教室の開催

木のぬくもりやすばらしさを体感するプランとして積木教室をNGO団体との共催で開催した。檜の間伐材からつくった約8000個の積木を前に子どもたちは待ちきれない様子で作業開始の合図を待った。橋や塔や城など思い思いにつくっていったが全部をつなぎ合わせると大きな夢の街(図11)ができあがっていて、あちこちから驚きの歓声があがった。この教室には地域の方々も多数参加され、子どもたちと一緒に積木で遊んだ。



図11 積木教室

②学習発表会で地域と交流

学習発表会では、今まで取り組んできた活動を地域の方々へ聞いていただく機会となった。地域の方の指導のもと米作りに励んだ記録を発表した5年生。できた米をもちにして試食してもらうことも行った。

わくわくの森から切り出された竹を使って竹馬づくりをした4年生は(図12)地域の方々へ乗り方の手ほどきを受け、交流の輪が広がった。



図12 交流

③学校林フォーラムの開催

学校林フォーラムは学校林のすばらしさを地域の方々へ知っていただく絶好の機会として計画・実施した。学校林の成り立ちを地域の代表の方へお話していただくことをはじめ、現在の「わくわくの森」「どきどきの池」がどうなっているのか、そしてこれからどうなっていったらいいのか、と学校が持っている自然環境の過去・現在・未来を考える貴重な時間となった。(図13)



図13 学校林フォーラム

④炭焼き体験と炭を介しての交流

竹炭づくりも計画段階から実行段階に入った。炭焼き名人である用務員に炭焼窯づくりから参加してもらい、指導を受けた。(図14)校地内にできあがった炭焼き場で、5、6年生が炭焼き体験をした。生産された竹炭・木炭・竹酢液は、校内で使用される他に他校との交流に使われたり、地域の方々にも利用していただくプランを持っている。



図14 炭づくり

今後の課題

この環境教育プログラムづくりは5年計画ですすめており、本年度は実質4年目の段階である。そのため、今後は「自然から学ぶ活動」では教科学習での学校林の活用プランを数多くつくって実践していくことが挙げられる。「自然を守り育てる活動」では地域の方々の協力のもと、学校林を守り育てる活動を中心にアサギマダラやホタルが舞い飛ぶ里づくり、里山回復事業にまでの発展を目指して息の長い活動に結びつけていくことに努めていきたい。

それにしてもこれらの活動を支えてくれる地域の方が何人もおられることに希望をもっている。学校林整備委員会という名称で活動を続けているが、学区の方々や子どもたちの結びつきは強く、学区の方々はこの子は、どこの誰の子なのか、皆さんが知っておられるのである。「おらが村の学校」「地域の子供は地域で守る」「子どもは地域の宝」という意識がすたれずに残っているのである。こうした学区の方々とのふれあい、地域に根ざした活動を行うことによって、子どものふるさと松野を愛する心が生まれ、たくましく生きる力が育まれていくのである。

21世紀は環境の時代といわれ、人間が人間らしさを取り戻す時代と言われている。これを具現化するためにも、学校は、これからの環境教育の発信源としての自覚を持つ必要がある。松野小学校は今後も環境教育の発展に努めていきたいと思う。

自然がいっぱい 笑顔でつながる 栃尾小学校

岐阜県高山市立栃尾小学校

6年 小瀬 颯・内藤 樹佐・箕浦 佑樹

1 はじめに



私たちの学校栃尾小学校は岐阜県の北東、北アルプスの麓 奥飛騨にあります。周りを山に囲まれた温泉観光地です。

全校81名という小さな学校ですが、朝から元気なあいさつを交わし、目を見て話を聞き目を見て話す。考えと心と元気をつなぐとても仲良しの学校です。



2 栃尾小学校の自慢

(1) ハイタッチあいさつ

栃尾小学校では、毎朝相手と目と心をつないでハイタッチあいさつを続けています。



学校に着いたとき、玄関先で校長先生や教頭先生、そして教室で担任の先生と仲間にハイタッチあいさつをします。

登校中、地域の人にも元気よく挨拶をしています。

地域の方は、交通安全ばかりでなく、不審者にあわないように、またクマに出会わないように通学路に出て僕たちを守ってくださっています。

そんな地域の方々とも毎日元気なあいさつを交わしています。



(2) 豊かな自然

学校の裏山には時々猿がやってきます。育てていた野菜を猿に食べられてしまうこともあります。それで畑には猿に食べられないようにネットをはっています。

周りの山からは他の動物もやってきます。学校のグラウンドをカモシカが横切っていたこともありました。こんなに動物が学校にやってくるのも、北アルプスの山々の森林が豊かで動物たちを育てているからなのです。

森にはニホンザル、ニホン鹿、ハクビシン、カモシカ、イノシシの五大ほ乳類がいます。これだけ全てのほ乳類がいるのは僕たちの地域だけだそうです。



(3) 川についての学び

学校の前を流れている高原川には、イワナやニジマスヤマメなど、きれいな川に住む魚がたくさんいます。その魚を求めて、他県からもたくさんの釣り人がやってきます。

六月 稚魚の放流に全校で出かけました。夏にはホタルも見られます。

川には遊歩道も整備されています。

しかしこの川は被害ももたらします。今から30年以上前、学校のすぐそばの洞谷という谷で土砂災害が起きました。全国ニュースになるほどの災害です。

この災害が起きてから、ダムや堰堤などが作られ続けています。土砂災害を防ぐ砂防について栃尾小学校では4年生で学習します。



(4) 森林についての学び

5年生になると森林について学びます。地域の方や森林官さんと、森林に出かけたり、お話を聞いたりして1年間森林の学習を行います。

いくつか体験した中で心に残ったことが2つあります。

1つめは聴診器で木の音を聞いたことです。

木も生きているんだなあと感じすごく楽しい一日でした。

2つめは雨水の実験です。木のないところの水はすぐに茶色になって出てきてしまいました。

木のあるほうの水はゆっくりときれいな水が少しだけたまりました。

このちがいに私はとても驚きました。私たちのところには豊かな森林があるからきれいな川が流れているんだということがはっきり分かりました。

また森林の働きについても学びました。

森林の働きは大きく5つあります。1つは空気をきれいにしてくれることです。木は二酸化炭素を吸って酸素を出してくれます。だから空気がすごくおいしいのです。

東京などに出かけて家へ帰ってくるとこのおいしさがよく分かります。

2つめは動物たちを養ってくれるということ。3つめがきれいでおいしい水を蓄えてくれるということです。

4つめは土砂崩れを防ぐ 5つめに木材として利用することを学びました。

森林についての知識が増えるたびにいつも見ていた景色が違って見えます。



(5) 全校での活動

時々お家の人や地域の人をお招きして活動が行われます。中でも秋の家族参観日に行う松ぼっくり工作は最近何年か続いています。

近くの手で集めてきた木の実を使って自分の好きな置物などを作ります。僕たちは木の実に目や鼻を付けて『まつぼくん』とよび楽しんで作ります。みんなが笑顔になる日です。

また12月には学習発表会があり、1年間の学びの発表をします。

去年僕たちは『森は生きている』と題し自分たちの学びを劇にして披露しました。

お世話になった森林官さん達に見てもらえたのがうれしかったです。

6年生の今は太鼓を練習し、近くの自然の中で演奏します。5月には桜祭りや近所のお祭りに参加しました。10月には北アルプス 新穂高ロープウエーののりばで演奏します。いつも自然に囲まれ笑顔で過ごすことができ僕たちは恵まれていると思います。

3 終わりに

僕たちは6年間のうちに学校の周りからだんだんと視野を広げ、地域の特徴を知り、川を学び、森を学びました。

私たちがこれからも守っていかなければならないことはたくさんありますが、この豊かな自然は守る気持ちがなければいつの日かなくなってしまうということを忘れず過ごしたいと思います。



わたしたちの「なかよし海岸林」活動

北海道檜山郡江差町立江差北小学校
6年 小笠原 涼太・長尾 雪菜



1 はじめに

江差町は北海道の南西部に位置し、人口約9,100人の町です。町名の「江差」はアイヌ語の「エサシ」昆布という意味からでたものです。江戸時代にはにしんがたくさんとれて「江差の五月は江戸にもない」といわれるほどにぎわい、江差追分など伝統文化が数多く伝わる町です。

江差北小学校は、平成19年に江差町北部の3小学校、朝日小、水堀小、日明小が統合してできた新しい学校で、全校児童が135人います。校舎は中学校とつながっていて休み時間などには卒業した先輩たちと交流できる珍しい学校です。



○江差町の位置



○江差町の中心地とシンボルの「かもめ島」



○校舎全景

2 砂坂海岸林について

砂坂海岸林は、わたしたちの学校から北東に歩いて15分のところにあります。ここは、農業をしている人たちが、浜からのふきつける強い潮風と、それに乗って飛んでくる砂から農作物を守るために昔の人が木を植えたのが始まりだと聞いています。わたしたちは、この「砂坂海岸林」を「なかよし海岸林」と名づけ、さまざまな活動に取り組んでいます。



←砂坂海岸林「なかよし海岸林」



砂坂海岸林をデザインした校章～中央の北小という文字を囲んでいる左右それぞれ三枚の若木の葉は、砂坂の森林を表しながら、朝日・日明・水堀三つの地域で北小を支えていることを表している。

3 「なかよし海岸林」での活動

(1) グリーンスクール

6月と10月の年2回檜山森林管理署のみなさんに協力していただいて海岸林を守り親しむ活動を全校みんなで行っています。活動の前半は、海岸林のとなりにある砂浜のゴミ拾いをします。山のように集まるゴミをみて「ゴミを捨てないようにしよう」「一人ひとりが気をつけないといけない」という思いを強くしました。また、韓国や中国、ロシアから流れて来るゴミもあって環境問題は地球全体で考えなければいけないということも感じました。後半は森林管理署の方々が先生になってくださり低・中・高学年に分かれて森について楽しみながら学びます。今年は低学年が木の種子のおもちゃ（模型）作り、中学年が、海岸林のはたらきについての学習と巣箱作りをしました。



高学年は林内の木の名前を憶えて最後にテストを受ける樹木博士検定にチャレンジし、認定証をいただきました。

□海浜清掃



○みんなで協力して、次々とゴミが集まってきます



○海外から流されたゴミ

□森林学習



○低学年



○中学年



○高学年

□みんなの感想

- ・春に来たときよりも緑が多くなっていて、空気がおいしかったです。
- ・花や木の名前をおぼえることができ、全問正解してうれしかったです。
- ・昔の人が努力して、今の海岸林ができたことがわかりました
- ・ゴミ袋がパンパンになるくらいたくさん拾えました。
- ・ゴミは韓国から流れたものもありました。
- ・木の種のおもちゃはすごく飛んでびっくりしました
- ・木に巣箱をかけました。鳥が来てくれるとうれしいです。

(2) 森林浴マラソン大会

毎年、9月に行っています。本番や練習を通して、秋の海岸林の自然を感じながら林内のチップロードコースを走ります。チップロードは風景も足場も変化に富んだコースで走っているととても楽しいです。また、マラソン大会が終わるとどの子も体力がついたことを感じます。



4 おわりに

この「砂坂海岸林」は、現在、田んぼや畑だけではなく国道やわたしたちの家や学校を守ってくれる、そしてわたしたちが身近に自然とふれあえる大切な宝物となりました。

地域を守るために昔の人たちが海岸林をつくり育ててきた思いを引き継ぎ、これからもさまざまな活動を通して「なかよし海岸林」を大切にしていきたいと思ひます。

